

Ⅱ. キャンパスライフについて

1. 学業

(1) 学部・学科の満足度

問11. あなたは入学した学部、学科などに満足していますか。

[1] 現状

全学で「満足している」と「どちらかという満足している」の合計は73%で、前回の調査結果と比較しても大きな変化はなく推移しています。しかし、「どちらとも言えない」は依然として16%、「どちらかと言うと不満である」、「不満である」とを含めた回答は27%となっています。

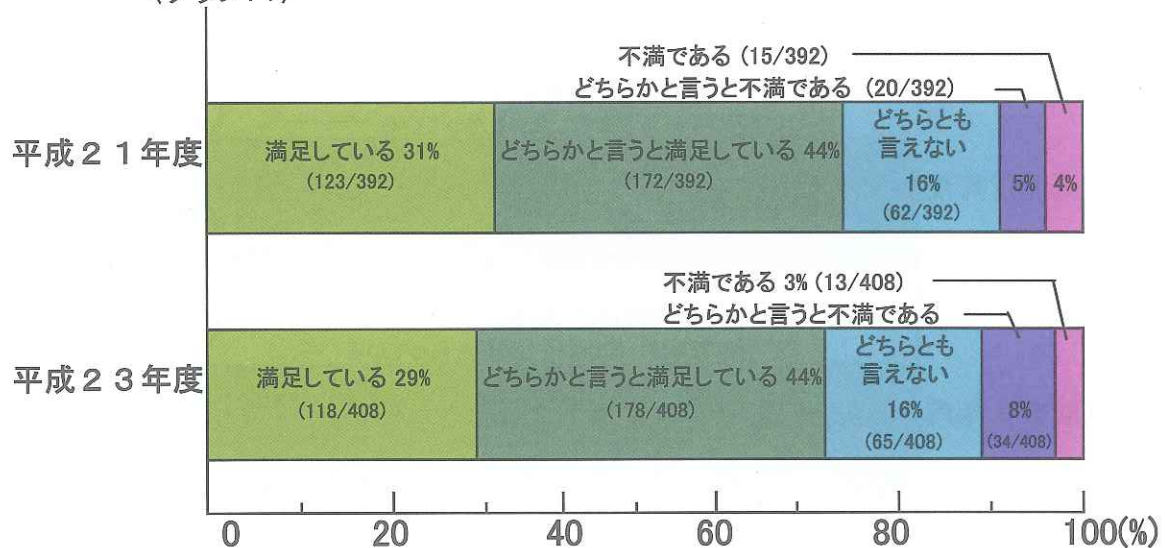
[2] 課題(問題点)

上記で述べたように、「どちらとも言えない」、「どちらかと言うと不満である」、「不満である」の合計が27%に及ぶのは、学部や学科の四分の一以上の入学者が満足していないことを示しており、それらの学生の具体的な理由の把握と同時に2年次以降の追跡調査が必要と思われる。

[3] 対応

前回の平成21年度(第12回)学生生活実態調査報告書からの「不満である」の割合は若干減少しています。しかし、「満足している」、「どちらかと言うと満足である」としない27%の学生は、不本意な入学または期待と異なった入学であったことを示していますので、学業と共に、現時点での不満の理由を調査し、より良い学生生活を送れるような対策を講じる必要があるように思われます。

〈グラフ11〉



(2) 今後の希望

問12. 問11で「どちらかと言うと不満である」又は「不満である」と回答した人におたずねします。今後、どのようにしようと考えていますか。次のうちから一つ選んで教えてください。

[1] 現状

「どちらかと言うと不満である」、「不満である」と回答した学生の割合に大きな変化はありませんが、「できれば転学部・転学科をしたいと思っている」、「他大学・専門学校などへ転学したいと思っている」が、平成20年度から増加の傾向にあります。その分「退学してもう一度他大学を受験したいと思っている」、「退学して就職したいと思っている」が、平成23年度には出現しなくなりました。

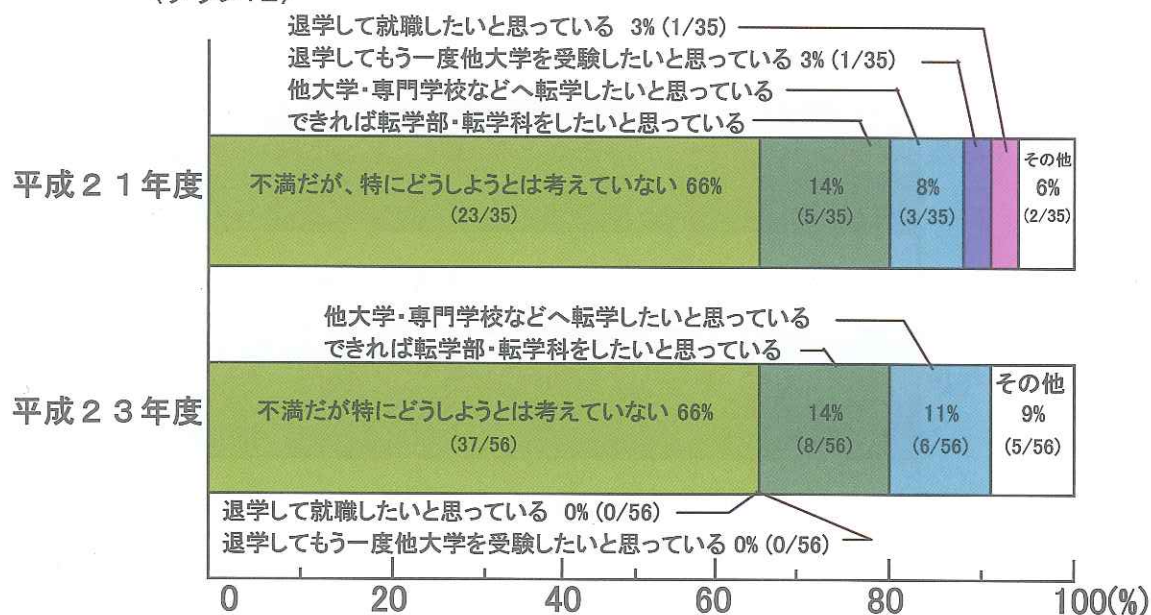
[2] 課題(問題点)

「退学してもう一度他大学を受験したいと思っている」、「退学して就職したいと思っている」とまで積極的には考えない、「不満だが特にどうしようとは考えていない」学生が66%を占め、やがて、彼らが具体的目標や目的を持たない状態に陥りやすくなるのではないかとの危惧が昨年度から指摘されています。本年度はその傾向が顕著となり、「退学してもう一度他大学を受験したいと思っている」が消えました。無目的な状態を増しながら、学業や学生生活に積極的な意欲や意義を見つけれない日々を過ごしている様子が窺えます。

[3] 対応

学部や学科に不満足でいる学生の存在は否定できませんが、無関心でいる学生を減少させることは可能です。学生生活の支援を高める施策を実施し、学生たちが学業に積極的に参画していけるような対応が望まれます。

〈グラフ12〉



(3) 1日の勉強時間

問13. 大学の授業以外に、あなたは1日平均何時間ぐらい勉強していますか。

[1] 現状

「ほとんど勉強しない」と答えた学生の割合は毎回減少し、今回は27%でした。しかし、1日1時間程度の勉強時間を加えると60%と2%減少しています。1日2時間程度の勉強時間を含めると81%にも及ぶことから、大半の学生は勉強に時間を割いていない実態が浮かんできます。

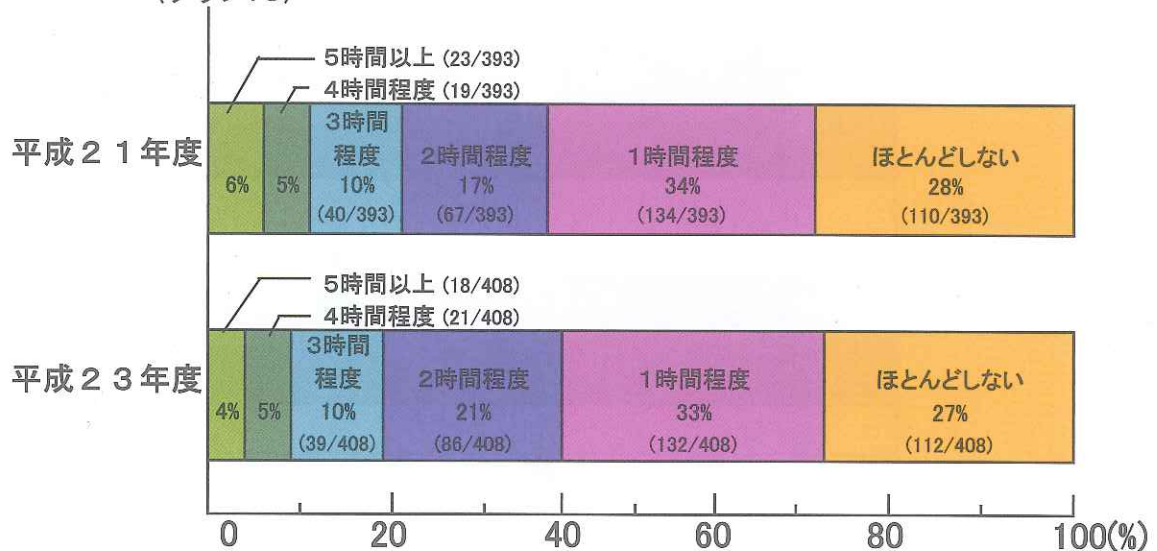
[2] 課題(問題点)

経済的な理由で日々アルバイトに追われ、勉強の時間が取れない学生がいます。「ほとんど勉強しない」と答えた学生が27%もいるのは大問題だと思います。これは学生だけの問題ではなく、教える側の教員の姿勢や授業への意識の問題が反映していると思います。

[3] 対応

自主的に勉強する学生はいます。そして、自主的に勉強する学生としない学生との間に学力格差が生じていないのならば、問題は重大ではないでしょう。大学入学当初から高校生の時代と違って勉強しないでも済むような感覚を育ててしまうのも問題で、自主的な勉強の必要性を説くのは教員の責任です。日々の自主的な勉強の時間のあることは修学や将来の具体的な目標への意欲を高めるものになると思います。

〈グラフ13〉



(4) 教員との交流

問14. あなたは本学の教員との交流に満足していますか。

[1] 現状

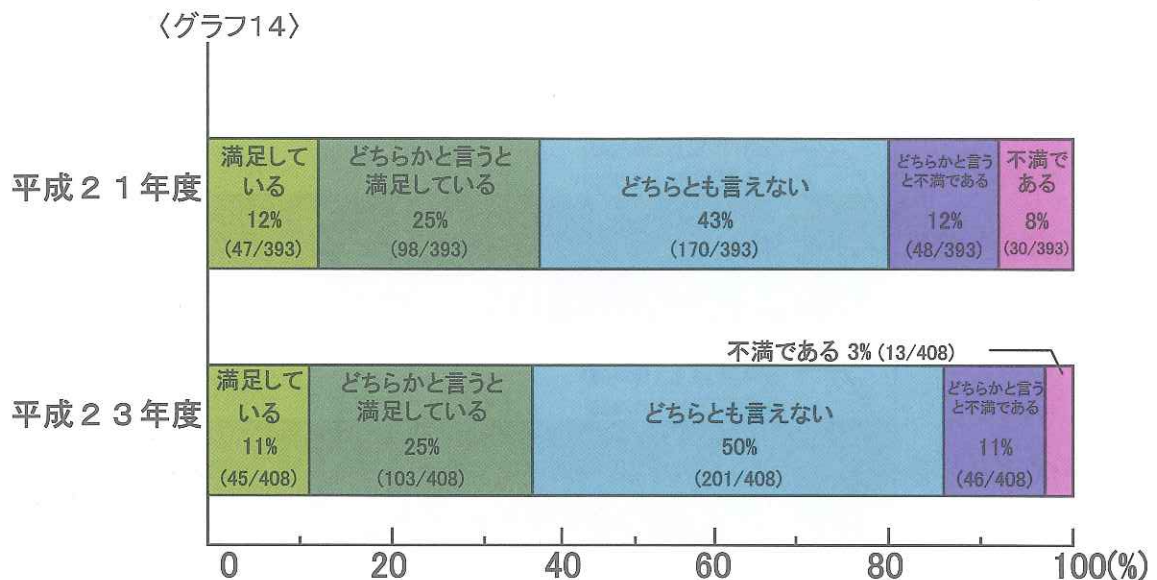
「満足している」、「どちらかと言うと満足している」の合計は、本年度36%で、この数年の平均は、三分の一です。

[2] 課題(問題点)

入学当初、右も左もわからない学生が、教員との交流に積極的に行動するとは考えにくいと思います。ただ、その状態が次の2年次にまで続くのが問題でしょう。教員が新生に積極的に対応する努力は、新生であるが故に重要だと考えます。また、大学の様子やシステムが分からない新生を導くのは教員の他に級生の存在も必要です。

[3] 対応

多くの学部で実施されている1年生からの担任制が上記の問題や課題の解決に効果を上げているようです。しかし、アンケートの結果のように、交流の不足が見られますので、今後も検討と対応が求められています。



(5) 学生窓口(各学部の学務係等)の対応

問15. 学生窓口(各学部の学務係等)との対応に満足していますか。

[1] 現状

全学での「満足している」、「どちらかと言うと満足している」の合計は45%で変化はないが、「不満である」、「どちらかと言うと不満である」は30%から22%へと減少しています。全般的に学務係の対応の向上が見られます。

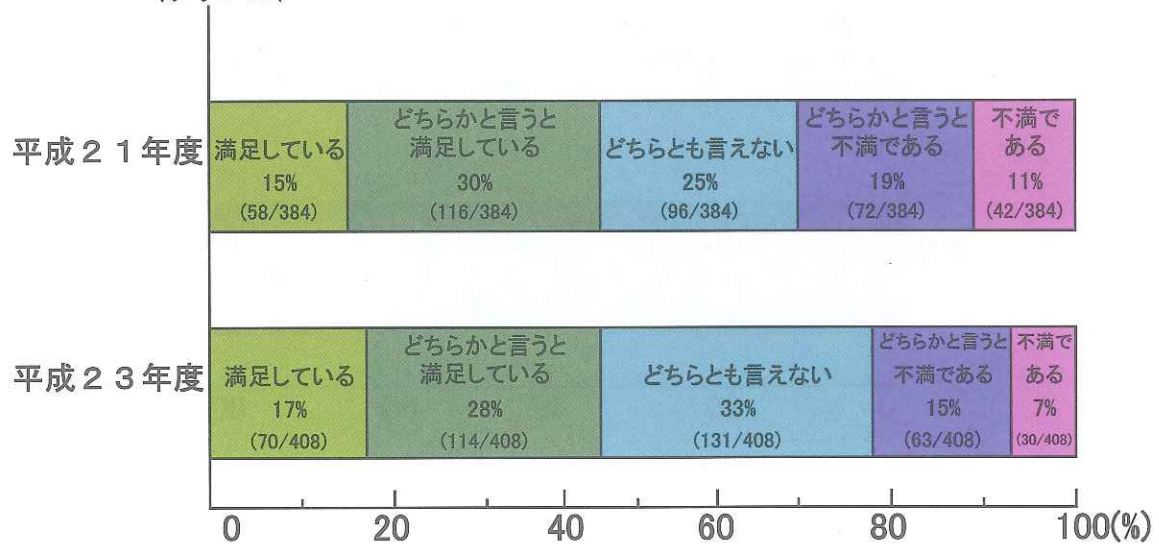
[2] 課題(問題点)

上記のように全般的に学務係の対応の向上が見られますが、「どちらとも言えない」が33%に増えました。これは新生の不慣れな状況があるように思えますが、学務係との手続きの複雑さは2年次になっても変わらず、複雑な手続きの簡略化や周知を頻繁に行う必要があると思います。

[3] 対応

前回の学生生活実態調査報告書では、ほとんどの学部で成果の向上が報告されています。今回も同様の成果の向上が見られると思いますが、「どちらとも言えない」が増えていますので、臨機応変な対応が望まれると考えます。

〈グラフ15〉



(6) 図書館の利用

問16. 図書館をどの程度利用していますか。

[1] 現状

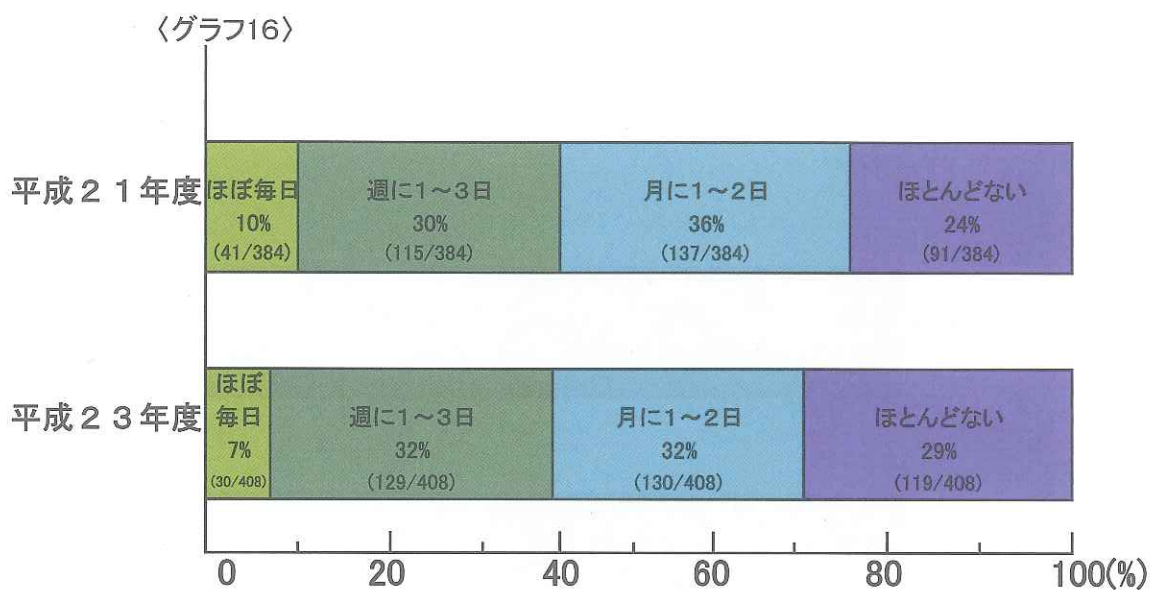
全学では「ほぼ毎日」、「月に1～2回」が前回より減少が見られました。また、「ほとんどない」が29%と5%も増えました。

[2] 課題(問題点)

図書館の利用で「ほとんどない」の割合が29%になったことについて、検討する必要があります。

[3] 対応

「ほとんどない」が5%も増えたのは、勉強の意識の衰退と関連しますので、授業との関係性を調べる必要があります。



(7) 図書館の利用目的

問17. 図書館の主たる利用目的を、次のうちから一つ選んで教えてください。

[1] 現状

図書館の利用目的は前回と大きな変化はありません。利用目的の大半は「自習」で48%を占め、「図書の借り出し、閲覧」が31%と前回より3%減少しています。

[2] 課題(問題点)

各学部のデータが揃っていませんので判断がつかい兼ねますが、調査母数を増やし、学部別のデータを取り、再度、検討する必要があると思われます。

